



R3 年度小学校英語授業づくりプロジェクト (第 2 回目研修)

私の授業実践 ⑬ ～水俣市立水俣第一小学校 永田 理恵子 先生～

5 年 単元名「What would you like?」

- 中心となる領域別目標 「話すこと〔やり取り〕」(ウ)
- 単元を通じた学習課題

大切な人が喜ぶスペシャルプレートを届けるために、ていねいな表現を使って注文し合おう。

- 本時の目標 (3/8)

自分の食べたい料理をていねいに注文し合うことができる。

目標に迫る言語活動の順序ややり方を工夫する

永田先生は、本時の目標達成に向けて、「ペアで伝え合う活動」「英語を書き写す活動」「クイズ形式で発表する活動」と複数の活動を設定されました。このように様々な活動を取り入れることで、活動が単調にならず、各活動に子供たちが集中して取り組むことが期待できます。加えて、永田先生の授業では、これらの活動が有機的につながっており、活動が進むごとに、徐々に子供たちの学びが深まっていくよう活動の順序ややり方を工夫されていました。



担任の先生とデモンストレーション

例えば、ペア活動で何度も繰り返し聞いたり話したりして表現に慣れ親しんだ後、活用した英語(料理名)の中から好きな料理を選んで書き写す。さらに、書き写したワークシートを活用して一番好きな料理をクイズ形式で発表するといった流れです。本時で活用するワークシートも、これらの活動が進むごとに、子供たちの思考がスムーズに流れるように工夫されていた点も、ぜひ参考にしたいところです。

自己選択・自己決定の場を設定し、本当のことを伝え合う

永田先生が設定した言語活動にはいずれも「自己選択・自己決定」する場があったということも、子供たちの学習意欲を喚起する大きな要素となっていました。ペア活動では、自分が好きなメニューをペアが替わるごとに「どれにしようかなあ。悩むなあ。」とつぶやきながら注文したり、一番好きな料理を書き写す活動では、丁寧に気持ちを込めて文字を書き写したりしている様子が見られました。

最後の「友達の好きなメニュークイズ」では、永田先生が代表児童の選んだ料理を「pizza, omelet, steak」などと 3 択で発表し、その中で一番好きな料理は何かを全員で予想しました。そして、一斉に「What would you like?」と尋ね、代表児童が「I'd like steak.」のように答えていました。

実際の活動では、ある児童の「I'd like rice.」の答えに、「やっぱりだ！だって、(給食で)パンの時はいつも落ち込んでるもん！」「そうそう！」などのやり取りが見られ、答えた児童もとてもうれしそうな表情を見せていました。本当のことを伝え合う言語活動によりコミュニケーションを楽しんでいる子供たちの様子を見て、外国語を学ぶ意義を改めて実感させられた瞬間でした。外国語教育は、コミュニケーションの教育とも言われます。各学校において、互いの気持ちや考えを伝え合うことの楽しさを実感できる活動をぜひ実践していただきたいと思います。